



ABEST21 e-News

No.83, February-March 2016

ABEST21

THE ALLIANCE ON BUSINESS EDUCATION AND SCHOLARSHIP FOR TOMORROW,
a 21st century organization

URL: <http://www.abest21.org> TEL. 03-3498-6220 E-Mail: ABEST21@abest21.org
Editor: Fumio Itoh

ABEST21 Office Report

=====

2016年2月

- ・05日：駐日インドネシア共和国大使館教育アタッシェ Dr. Alinda F.M. Zain の来訪
- ・18日：ソニー株式会社を訪問
- ・19日：日産自動車株式会社を訪問
- ・25日：タイ・チェンマイ大学学生の来訪
- ・27日：ABEST21 監事南山大学齋藤孝一教授を訪問
- ・29日：ABEST21 副会長の Ilker Baybars 教授と打合せ

2016年3月

- ・01日：合同委員会 (Peer Review Committee & Accreditation Committee) の開催
- ・02日：ABEST21 理事会、総会及び国際シンポジウムの開催
- ・03日：マレーシア・Dean Mohd Ridzuan bin Darun (Universiti Malaysia Pahang) の来訪
- ・22日：文部科学省に2015年度認証評価結果の報告
- ・23日：文部科学記者会で2015年度認証評価結果の発表
- ・28日：ソニー株式会社を訪問

1. Quality Improvement and Peer Review System -26

=====

教育質保証の国際展開についての問題

ABEST21は、2016年3月1日(火)、ソニー株式会社の Sony University で認証評価委員会 (Accreditation Committee) と専門審査委員会 (Peer Review Committee) との合同委員会を開催し、2015年度 MBA プログラム及び Business Economics のマスタープログラムの質保証の審査を行った。その結果、下記のビジネススクールの MBA プログラム等が認証され、その審査結果を3月23日の文部科学省の文部科学記者会で発表しました。認証校の内訳は、日本(2校)、ロシア(1校)、タイ(1校)、インドネシア(6校)そしてマレーシア(1校)の5ヶ国10校の MBA プログラムと1校のビジネスエコノミックスのプログラムで、ABEST21の認証評価の国際展開の一端を読み取ることができる。



(MBA プログラム)

- ① 京都大学経営管理大学院（専門職大学院）
- ② 南山大学大学院ビジネス研究科ビジネス専攻（専門職大学院）
- ③ Faculty of Economics and Business, Universitas Airlangga, Indonesia
- ④ Graduate Program of Management and Business, Institut Pertanian Bogor, Indonesia
- ⑤ Faculty of Economics and Business, Universitas Lampung, Indonesia
- ⑥ PPM School of Management, Indonesia
- ⑦ School of Economics and Business, Universitas Telkom, Indonesia
- ⑧ Graduate School of Management, Management and Science University, Malaysia
- ⑨ Lomonosov Moscow State University Business School, Lomonosov Moscow State University, Russia
- ⑩ Faculty of Business Administration, Chiang Mai University, Thailand
(ビジネスエコノミックスのプログラム)
- ⑪ Faculty of Economics and Business, Universitas Brawijaya, Indonesia

この結果、これまでの ABEST21 の認証評価の実績は下表のとおりである。

認証評価等の認証実績

	2009.3	2010.3	2011.3	2012.3	2013.3	2014.3	2015.3	2016.3	Total
China	-	-	-	-	-	1	-	-	1
Indonesia	-	-	-	1	2	1	1	6	11
Japan	4	1	2	1	1	4	2	2	17
Malaysia	-	-	1	-	-	2	4	1	8
Russia	-	-	-	-	-	-	-	1	1
Singapore	-	-	-	1	-	-	-	-	1
Thailand	-	-	-	-	-	-	1	1	2
Total	4	1	3	3	3	8	8	11	41

周知の如く、ABEST21 は 2007 年 10 月に文部科学相より分野別認証評価機関として認証され、日本の経営系の専門職大学院教育の認証評価機関としてスタートした。最初は日本の経営系の専門職大学院教育の認証評価のみを行っていたが、経済・社会・文化のグローバル化の加速度的な進展に伴い、グローバル化に対応した教育研究環境づくりが大学に求められ、認証評価機関の使命の見直しが必要となってきた。その結果、認証評価機関はこの“グローバル化に対応した教育研究環境づくり”を推進していくための環境整備の役割を担っていくことになり、教育質保証によって大学間の学術国際交流を円滑化させていく要素が付加されてきた。“グローバル化に対応した教育研究環境づくり”には、大学間の国際交流を推進していく国際的な教育質保証システムの構築が不可欠であり、その構築を目指して ABEST21 は認証評価の国際展開に踏み切った。

この国際展開を推進していく過程において、学習したことは下記の事項である。

1) 現実に基づいた「教育研究上の目的」を評価すること。「教育の目的」には、“人格の陶冶”と“社会の要請に応えた人材育成”の二つの基本的目的があるが、ビジネススクールの教育においては特に“社会の要請に応えた人材育成”が重要な目的となってくる。しかし、この目的はその国の経済発展の段階及びその国の文化に根差した人材雇用制度の仕組みによって育成する人材が異なってくる。それ故、これを無視すると当該ビジネススクールの教育をグローバル化の名のもとに世界を支配しているビジネススクール教育の鑄型に詰め込む結果となり、その国の社会のニーズに

応えた人材の育成が難しくなってくる。

2) 教育質保証の問題をできるだけ多様な視点で評価していくこと。教育研究活動状況を評価する場合には、グローバルな視点とローカルな視点に基づく評価が必要であり、それを評価する委員についてもローカルな委員と国際委員との組み合わせが重要である。また、評価結果(案)を審査する委員会の構成についても、できるだけ多様な意見を聴取することができる委員会構成に配慮していくことが必要である。

3) 審査過程をすべて共有していくこと。認証評価の使用言語を国際語と言われる「英語」に統一することによって、提出書類の作成、委員会の協議、提出書類の審査及び大学執行部、大学院執行部及び学生に対するインタビュー等をすべて共有化することが可能となり、多様な教育制度に対する客観的な評価を可能にしている。

認証評価は教育の質維持向上に結び付くものでなければならない。認証評価機関がただ「過去」の教育研究活動の結果を「適合」及び「不適合」の評価をしていくだけでは、大学は制度として未来に存続していくことはできない。大学が自己の教育研究資源に基づく個性豊かな教育研究特徴を「未来」に投影し、それを目指して教育の質維持向上を図っていくのでなければステークホルダーの期待に応えることはできない。それ故、認証評価機関はその実現可能性を評価していく大きな役割を担っている。「認証評価」のグローバル化とは型紙通りのビジネススクールをいくつも仕立て上げていくことではないと思っている。(理事長、伊藤文雄)

2. General Information

1) 2016 年度総会の開催について

2016年3月2日(水)に、2016年度 ABEST21 会員総会がソニー株式会社の Sony University で開催されました。理事会で審議された2015年度収支決算報告及び2016年度予算(案)、2015年度認証評価と Good Practice Award の承認、ABEST21 質保証システムの一部改正(案)等がそれぞれ審議され、種々意見交換の後、予算案の一部修正を含め、これを承認いたしました。



2) 駐日インドネシア共和国大使館教育アタッシェ Dr. Alinda F.M.Zain さんの来訪

2016年2月5日(金)、駐日インドネシア共和国大使館教育アタッシェ Dr. Alinda F.M.Zain さんが、Universitas Padjadjaran の Dr. Popy Rufaidah 先生とオフィスに來られました。3月2日に予定されている ABEST21 総会における駐日インドネシア共和国大使館の特命全權大使 Dr. Yusron Ihza Mahendra の出席について打合せをいたしました。



3. Quality Improvement

1) 2015 年度認証評価の結果と Good Practice Award の授与について

2016年3月2日(水)開催の理事会におきまして、下記11大学のビジネススクールの認証校に対して、駐日インドネシア共和国大使館の特命全権大使 Dr. Yusron Ihza Mahendra 氏(写真左)及び法人理事の Prof. Dr. Qin Hai Ma (Dean, Northeastern University, China) 氏(写真右)より、それぞれ祝辞が述べられました。その後、インドネシア関係の認証校に対してはユスロン大使より、又その他の国の認証校に対しては ABEST21 理事長より、それぞれ証書が手渡されました。さらに、各認証校の Good Practice Award については、副理事長の Dr. Ilker Baybars (CEO, Carnegie Mellon University-Qatar) 氏よりそれぞれ授与されました。

専門職大学院(経営)

- 1) Graduate School of Management, Kyoto University, Kyoto
Good Practice: "Internationalization through overseas cooperation and IPROMAC"
- 2) Graduate School of Business Administration, Nanzan University, Nagoya
Good Practice: "Responsible management education for human dignity"
Master Program in Management
- 3) Faculty of Economics and Business, Universitas Airlangga, Surabaya
Good Practice: "Experiential Business Learning (EBL)"
- 4) Graduate Program of Management and Business, Institut Pertanian Bogor, Bogor
Good Practice: "Management Education in Agribusiness"
- 5) Faculty of Economics and Business, Universitas Lampung, Bandar Lampung
Good Practice: "Management program focused on developing the economic structure of SME's"
- 6) PPM School of Management, Jakarta
Good Practice: "Management Studies based on applied management sciences"
- 7) School of Economics and Business, Universitas Telkom, Bandung
Good Practice: "Synchronous and asynchronous learning process"
- 8) Graduate School of Management, Management and Science University, Kuala Lumpur
Good Practice: "Compulsory innovative teaching"
- 9) Lomonosov Moscow State University Business School, Lomonosov Moscow State University, Moscow
Good Practice: "Responsible and integrated management education program"
- 10) Faculty of Business Administration, Chiang Mai University, Chiang Mai
Good Practice: "Teaching integrated business management through case studies and meetings with successful businesspersons"
Master Program in Business Economics
- 11) Faculty of Economics and Business, Universitas Brawijaya, Indonesia
Good Practice: "Competence-based teaching and learning method"



2) 2015年度認証評価審査結果報告書の提出について

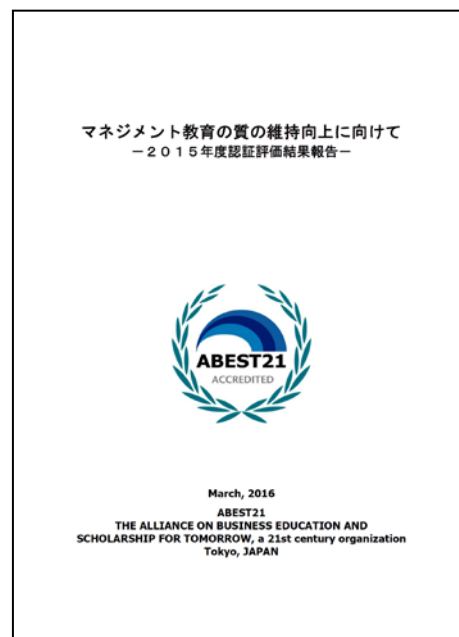
2016年3月22日（水）、文部科学省高等教育局に ABEST21 2015年度経営専門職大学院の「認証評価」審査結果報告書“マネジメント教育の質の維持向上に向けて—2015年度認証評価結果報告—”を提出しました。内容は質保証の成果を共有していくために、全て英文で記載しました。報告書は全三冊で、目次は四部からなり、第一部は ABEST21 の質保証システムについて、第二部は日本の専門職大学院（経営）の「認証評価」の結果について、第三部はアジアのビジネススクールの修士課程マネジメントプログラムの「相互評価」の結果について、そして第四部はアジアのビジネススクールの修士課程ビジネスエコノミクスプログラムの「相互評価」の結果について、全体で 1,156 ページに及ぶ報告書です。表紙は従来通りの日本語表記ですが、評価結果の報告内容は認証評価の国際展開の一環として、2015年度より報告書はすべて英文記載といたしました。

Part One: ABEST21 Quality Assurance System

Part Two: Professional Graduate Schools of Business in Japan

Part Three: Master Programs in Management in Asia

Part Four: Master Programs in Applied Economics in Asia



3) 文部科学記者会での発表について

2016年3月23日（水）、文部科学省の「文部科学記者会」におきまして、日本の報道機関を対象に ABEST21 が実施した 2015 年度の「認証評価」と「相互評価」の審査結果の内容について報告をいたしました。3月24日の「京都新聞」には ABEST21 の認証評価結果の記事が掲載されておりました。このプロセスを経て審査結果の公表が可能となりますので、11校の認証校に個別審査報告書冊子を送る予定です。その後、4月以降になりますが ABEST21 website に 11 校の審査結果を公表いたします。



4) 2015年度 Kaizen Reports の審査結果について

ABEST21 は、教育研究環境の変化のなかでステークホルダーに対して教育質保証をしていくためには、受審校が評価項目による自己点検（Self-Check）の分析を行い、その分析によりカイゼン課題を見つけ、その課題を解決していく実行計画を立案し、そしてその成果を検証していくシステムを構築しているかどうか、自己点検から成果の検証に至るまでのプロセスとその個別内容について 18 の基本視点と 78 の細目視点の評価項目に従って、教育の質維持向上を図る仕組みが機能しているかどうかを評価している。



従って、認証校は認証を受けた時点から「教育の質維持向上」のために実行計画を計画通りに履行していかなければならない。その実行計画履行状況報告書が”Kaizen Report”である。認証校は、毎年6月末日までに前年度の実行計画履行状況をABEST21に報告し、その検証を受けなければならない仕組みとなっている。2015年度においては、11月10日、インドネシア・バンドンのUniversitas Padjadjarra（写真）より実施されました。提出されたKaizen Reportについては、Peer Review Teamによる「書面審査」と「実地審査」とが行われ、2015年度においては、下記の9校について「書面審査」と「実地審査」とが実施されました。

- 1) 一橋大学大学院国際企業戦略研究科経営・金融専攻
- 2) 神戸大学大学院経営学研究科現代経営学専攻
- 3) 筑波大学大学院ビジネス科学研究科国際経営プロフェッショナル専攻
- 4) 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科国際マネジメント専攻
- 5) SBI 大学院大学経営管理研究科アントレプレナー専攻
- 6) 早稲田大学大学院商学研究科ビジネス専攻
- 7) Faculty of Economics and Business, Universitas Brawijaya, Malang, Indonesia
- 8) School of Business and Management, Institut Teknologi Bandung, Bandung, Indonesia
- 9) Faculty of Economics and Business, Universitas Padjadjaran, Bandung, Indonesia

しかし、下記の5校については、「実地審査」の実施日程が認証校側と調整ができず、実施審査は2016年度に持ち越されることになりました。

- 10) School of Business Administration, Northeastern University, Shenyang, China
- 11) Faculty of Economics and Business, Universitas Indonesia, Jakarta, Indonesia
- 12) Graduate School of Management, International Islamic University Malaysia, KL, Malaysia
- 13) Graduate School of Business, Universiti Sains Malaysia, Penang, Malaysia
- 14) SP Jain School of Global Management, Singapore

2016年度の実施に関しては、2015年度の経験を踏まえて、Kaizeen Report 記載様式の一部変更等の改正をして下記の要領で実施したい。

- ① Kaizen Report の提出日：2016年6月末
- ② 実地審査期間：2016年8月～10月

5) 学士課程マネジメントプログラムの教育質保証の実施について

2016年3月2日（水）開催の理事会において、ABEST21はこれまで修士課程のマネジメントプログラムの教育質保証の審査に限定してきましたが、2015年度における「ビジネスエコノミクス」プログラムの審査の経験をも踏まえ、2016年度より学士課程のマネジメントプログラムの教育質保証の審査を始めることが承認されました。特に、アジアにおける大学間の学生交換の量的拡大を推進していくためには学士課程の教育質保証が不可欠であり、学部学生にアジアの「多様で異質」な価値観の理解を深化させていく学習機会の拡大が必要です。

申請受付等のスケジュールは、従来のプログラムと同じ日程で行います。詳細につきましては下記の事務局までご相談ください。日本の大学の場合には「選択評価」として実施し、特に国際系の学部教育の質保証をアジア諸国の大学にしていくことにより、日本とアジア諸国の大学との学部学生交換の機会を斡旋していきたいと考えています。

問合せ先：ABEST21 事務局認証評価係 e-mail：ABEST21@abest21.org

6) Dean Mohd Ridzuan bin Darun (Faculty of Industrial Management, Universiti Malaysia Phang, Malaysia)の来訪について

2016年3月3日(木)、Universiti Malaysia Phang, MalaysiaのDr. Mohd Ridzuan bin Darun (Faculty of Industrial Management)学部長が、ABEST21を訪問されました。Universiti Malaysia Phangは、2016年度にSelf-Check Reportを提出される予定ですので、自己点検分析における問題点の明確化のための相談に応じました。



7) 2016年度の年度計画について

2016年3月2日(水)開催の理事会において、2016年度の教育質保証の審査について、下記の審査日程が承認されました。

- ① 受審資格申請の締切日：2016年5月30日
- ② “Kaizen Report (KZR)”の提出締切日：2016年6月30日
- ③ “Self-Check Report (SCR)”の提出締切日：2016年6月30日
- ④ KZR/SCRの「実地審査」の実施期間：2016年8月～10月
- ⑤ “Quality Improvement Plan (QIP)”の提出締切日：2016年9月30日
- ⑥ Peer Review Committeeでの報告：2016年11月上旬
- ⑦ 評価結果の意見調整期間：2016年11月～12月
- ⑧ Peer Review Committeeの開催：2017年3月上旬
- ⑨ Accreditation Committeeの開催：2017年3月上旬
- ⑩ 認証評価証の授与：2017年3月上旬

8) 維持評価の受審について

これまで維持評価 (Maintenance Accreditation)を受審する場合には、初審評価 (Initial Accreditation)と同じ手続きの「認証評価受審資格申請 (Accreditation Eligibility Application)」を提出し、その資格審査委員会による審査を受けてきた。しかし、認証校は認証後に“Kaizen Report”を毎年提出し、実行計画に基づく教育質維持向上の審査を受けその資格が確認されているので、初審評価を受ける時とは異なる状況にある。2015年度の“Kaizen Report”の審査を通じて、教育質保証が認証された後の教育質維持向上の状況が把握されているので、2016年度より維持評価を受審する場合は“Kaizen Report”の審査報告の承認に基づいて「維持評価受審申請書」のみの提出とすることになった。

4. Global Knowledge Network

=====

1) 2015年度国際シンポジウムの開催について

2016年3月2日(水)、東京・品川のSony Universityで2016年度国際シンポジウム“Creating the Future through Quality Improvement”が、河野広隆教授(京都大学経営管理大学院院長)の司会により開催されました。テーマは、未来に夢を与える組織を如何に創造していくか、その発展させる原動力は何か、について考える機会をもちました。先ず、基調講



演として、タイのチャナロン会長 (Prof. Dr. Channarong Pornrungrroj (Director, ONESQA 会長、AQAN 会長、タイ) (写真上)より、アセアン諸国の政府教育質保証委員会との連絡機構である AQAN の使命及びタイ政府の認証評価機関である ONESQA の役割と活動等についての講演がなされました。

引き続き、ソニー株式会社人事センター人材開発部統括部長であられる足立朋子氏(写真下)より、会社発展の原動力には”Curiosity”の精神があり、この”Curiosity”が新製品開発や品質改善を促し、今日のソニーを創り上げてきていることを話されました。また、ソニーの事業のなかで、電子機器部門が一般的に良く知られているが、電子機器分野の占める割合は 48.7%にすぎず、売上ベースではファイナンス部門が過半数を占めていること、さらに映像、音楽、電子機器、通信機器等の多様な分野が連携したネットワークにより製品開発が行われていることがソニーの大きな強みの一つとなっていることが話されました。人材育成の面においても、Seed Acceleration Program を立ち上げ、若年層のグローバル人材の育成にも力をいれている事が紹介されました。特に、ソニーの創設者である井深大氏と盛田昭夫氏の創設時の理念である “Creative Failure を恐れない”、“常に Curiosity を持ち続ける”ことをソニー・スピリットとし、分野、地域の垣根を越えて活躍できる人材の育成に努め、性別、国籍を問わず、地域、分野を超えグローバルに適材適所に人材を配置していく人事 (Global Job Posting Program) を展開していることを知りました。そのような人材育成の手法の一つとして、海外社員が日本の事業部で働く機会を提供するというグローバル・インターンシップ制度を導入し、ソニーの理念を深く理解し、厳しい環境の変化に耐え、グローバルに活躍できうる人材がこれからは必要であることが強調されました。



パネル討論では、モスクワ大学のビハンスキー学部長 (Prof. Dr. Oleg Vikhanskiy (Dean, Lomonosov Moscow State University)の司会により下記の討論者で行われた。

討論者：

- ・Prof. Dr. Hasriadi Mat Akin (Rector, Universitas Lampung, インドネシア)
- ・Prof. Dr. Muhammad Ashari (Rector, Universitas Telkom, インドネシア)
- ・Prof. Dr. Kusmartono (Vice Rector, Universitas Brawijaya, インドネシア)

コメンテーター

Prof. Dr. Arfah Binti Salleh (President & CEO, Putra Business School, マレーシア)討論者は大学執行部の一員であり、各討論者より、大学改革においていま何が問題であるかについてそれぞれ報告され、コメンテーターの Dr. Arfah Binti Salleh 教授より大学改革と学長のリーダーシップについての質問がなされた。



2) Chiang Mai University 学生の来訪について

2016年2月25日、Chiang Mai University の MBA-Agro Industry Program の学生 14 名が Dr. Pichayalak Pichayakul (Associate Dean, Chiang Mai University International College) の引率で ABEST212 月 25 日から 28 日の予定で来日しました。25 日に国際認証評価機関の使命とそのシステムについて説明し意見交換をいたしました。



5. Membership Information

1) Master of Management, Post Graduate Program, Universitas Pendidikan Nasional, Denpasar, Indonesia

Universitas Pendidikan Nasional (UNDIKNAS) は、1969 年に創設された Akademi Keuangan dan Perbankan を源流とした、学生総数約 2 万を抱える私立大学です。この度会員になりました Master of Management, Post Graduate Program は 2000 年に設立され、バリ島の商業都市デンパサールにキャンパスを持ち、約 1,450 名の学生が在籍しています。バリ・ヒンドウの哲学であるヒタ・カラナ (The Hita Kaanra “Three Causes of Happiness”) 哲学に則った教育を展開されているプログラムが特徴的です。Master of Management Program の代表者は Director Gede Sri Darma 教授 (写真中央) です。



ウェブサイト→ <http://www.undiknas.ac.id/>